

荒立神社

歴史上でも、神話上の起源でも、愛や結婚に関連する神道の神社はなかなか見つけることができません。しかし、荒立神社は、天鈿女（アメノウズメ）と猿田彦を祀ることで、この幸運な名誉を受けています。天鈿女は、神の祭りの女神であり、その魅力的な舞は、太陽の女神を洞窟から連れ出し、世界に光を取り戻しました。猿田彦は、旅の導き、教育、その他多くの力を持ちます。彼らは結婚の至福と充実感を象徴します。

荒立神社とその神聖な境内はそれほど大きなものではないかもしれませんが、この場所にしかない神秘的なスピリチュアルな力があり、それは参拝者全員にも明白です。仕事、家族の幸福、恋愛について手引きが必要な人が神社を訪れ、宮司と個別に相談します。

特に注目すべきは、礼拝堂にある2つの絵画です。1つ目は天鈿女が有名な舞を舞う様子を捉えています。これが神道の儀式における舞、神楽の起源だと言われており、神楽は日本全国で踊られ、高千穂の見どころでもあります。2つ目は将来恋人となる2人が初めて会った衝撃的な瞬間を描いています。2人は天の十字路で互いに胸を打たれ、すぐさま（荒い）結婚し、地元の木材をそのまま使って家を建てる（立てる）ことを主張しました。また、参拝者の多くは神社の境内と林道に沿って吊るされた木版も楽しめます。これらは木槌で打つことで幸運、健康、そしてもちろん愛をもたらします。